

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|--------------|-----|-----------------|
| ○事業所名 | ホザナ・ルームケア | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 11月 1日 | | ～ 2025年 12月 26日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 10名 | (回答者数) 6名 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 11月 1日 | | ～ 2025年 12月 26日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 10名 | (回答者数) 7名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 1月 23日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|--|
| 1 | 重症心身障がい児のための放課後等デイサービスだけでなく、同敷地内において通常の児童発達及び放課後等デイサービスも一体的に運営しているため、様々な障がいや病気を抱えた子ども達の交流の場として貴重な体験が出来る。 | 一人ひとりが抱えている障がいや病気を考慮して過ごせるよう1階と2階のフロアを有効活用している。一方で、終礼や季節のプログラムの際には皆と一緒に参加し、年齢や障害・病気の枠を越えて子ども同士の交流の場も大切にしている。 | 外部の講師を招き、特別プログラムや保護者向けの講習会等を開催している。また、月に1回程度、職員同士の勉強会を開催し、支援の質の向上に向けた取り組みを行っている。今後も職員や保護者の意見を聞きながら、様々な分野の人達に協力してもらうことを考えている。 |
| 2 | 通所している子ども達が安心して過ごせるよう、スタッフは子ども一人ひとりときめ細かなコミュニケーションを重視し、日々のちょっとした変化にすぐ対応出来るようにしている。デイサービスの雰囲気と家庭的な雰囲気を合わせながら、子どもとスタッフが一緒に成長出来る場となっている。 | 様々な資格や経験を有している職員を配置することにより、子ども達や保護者に対する支援を日々充実出来るようにしている。子ども達の安全性を確認しながら、1階と2階の職員の配置を柔軟にすることで誰でもスムーズに支援が出来るようにしている。 | 以前から連絡ノートの電子化の意見を聞いており、現在一部のフロアを中心に電子化の準備を進めている。業務の効率化に加えて、今まで以上に支援内容が簡潔にまとめることが出来るため、職員と保護者のコミュニケーションが取りやすくなることが期待される。 |
| 3 | 重症心身障がい児童にとって、日々の身の回りのケアが重要な支援内容になる。限られたサービス提供時間の中でも、個々の成長に様々な側面からアプローチすることを実践している。 | 重症心身障がいの子どもの支援において、体調の急変や成長に伴う身体の変化は大きなライフサイクルの1つと考える。子ども一人ひとりのケアを高めていけるよう日々の目標やプログラムを目に見える形で大きく掲げ、支援に取り組んでいる。 | |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 昨今の運営において、直接支援に従事しているパートやアルバイトの職員の入れ替わりが激しい時期があった事により、子どもや保護者に不安を与えてしまった。 | 職員の入れ替わりが激しい件について、やはり支援にかかる体への負担が大きな要因として挙げられる。授業終わりの利用が多く限られた時間ではあるが、重度の障がいや病気を抱えている子どもに対する支援は想像以上の重労働である。 | 法人全体としても、職員一人ひとりの体調管理が重要視されるようになった。特に体への負担が大きい支援のため、その日の職員の体調に合わせて勤務時間の変更や配置替えなどをしながら、無理なく長く働けるよう取り組んでいる。また、役割分担がしやすいよう、常に情報共有や勉強会の機会、ボランティア等を活用していく。 |
| 2 | 現在、通所している子どもの障がい特性等の理由から、医療的ケアが必要な子どもの受け入れが難しく、地域の相談支援センターや学校からの利用相談に答えられない時期があった。 | 当事業所では自力歩行が出来る重症心身障がいの子どもの受け入れニーズが多く、結果として配置スタッフがほぼマンツーマンで怪我や脱走等の見守りに対応しなければいけない場面が目立つようになった。 | 医療的ケアの内容を軸に、支援出来る環境の整備が急務となる。多機能型の強みを生かし、2階フロアも活用していく。人員の配置(特に看護師による重点的なケア)と施設的环境スペースを工夫しながら安全性を高めていくことが重要である。 |
| 3 | | | |